



作業療法の支援について～食事編～

リハビリテーション室には

理学療法士 (PT)、作業療法士 (OT)、言語聴覚療法士 (ST)

の3職が在籍しています。共通しているのは、障害を負っても患者様が患者様らしく生きていくために支援をする事です。

私達作業療法士は、主に食事・更衣・トイレ動作等の日常生活動作 (ADL) の訓練を行います。食事は自分で食べる事が困難な患者様もみえ、機能訓練と併用して自助具を用いる場合もあります。以下に作業療法室が持っている、食事の自助具の一部を紹介します。

作業療法士 武藤友加里

スプーンが上手に把持できない方への自助具



手に変形のある方でも柄の部分を中心に曲げて握る事が出来ます。



先が体側に向いている事によって、スプーンの操作が簡単になります。



スプーンにスポンジを巻く事で柄が太くなり握りやすくなります。



利き手に合わせて左右両方あります。

箸が上手に把持できない方への自助具



弱い握力でも簡単に握りこむ事が出来ます。



スプーンと同様に左右両方あります。

お知らせ

第3回 院内NST研修会(排便のアセスメント方法)
8月10日(水) 17:30～18:30 3階講堂

第17回 岐阜南NST研究会

特別講演『嚥下評価における頸部聴診法 活用のポイント』

講師:小笠原訪問看護ステーション 技師長(言語聴覚士)

おおのき ひろあき

大野木 宏彰先生

8月25日(木) 18:30～20:00 3階講堂

どの職種でも参加可能です。栄養に興味のある方や、新人職員の皆様ぜひご参加下さい!